

作成日: 2013年3月25日

改訂日: 2020年5月13日

安 全 デ ー タ シ ー ト

1.製品及び会社情報

製品名	BFコート	(主な用途) 住宅基礎美装材
会社名	株式会社 豊運	
住所	大阪市東住吉区今川3-12-4	
担当部門	技術本部	
電話番号	0494-62-5545	
FAX番号	0494-62-5345	
緊急連絡先	東日本営業部 福島県石川郡平田村大字西山字水尾111-3	電話番号 0247-54-3232
	西日本営業部 大阪市東住吉区今川3-12-4	06-6708-8131
製品番号	N-1801	

2.危険有害性の要約

GHS分類		
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入: ガス)	分類対象外
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 粉塵)	区分外
	急性毒性 (吸入: ミスト)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	分類できない
	吸引力呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 (急性)	分類できない
	水生環境有害性 (長期間)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語	警告
危険有害性情報	皮膚刺激
注意書き	
安全対策	取り扱い後はよく手、顔を洗うこと。 保護手袋/保護衣/保護メガネ/保護面を着用すること。
応急措置	特別な処置が必要である(「項目4.応急措置」を参照すること)。 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
保管	保管温度は5℃以下あるいは40℃以上としないようにする。
廃棄	内容物/容器を、国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分:混合物

成分名	CASNo.	官報公示整理番号 (化審法)
ビニロン・メタクリル酸・ アクリル酸エステル・ メタクリル酸エステル系 共重合体水性エマルジョン	-	-
炭酸カルシウム	471-34-1	1-122

- ・特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化学物質管理促進法)の第1種指定化学物質及び第2種指定化学物質には該当しない。
- ・国連GHS分類基準で評価して、評価物には該当しない。
- ・化学物質等の危険有害性等の表示に関する指針別表の分類基準に該当しない。

※厚生労働省指針値14物質(アセトアルデヒド・フタル酸ジ-n-ブチル・pジクロロベンゼン・エチルベンゼン・ホルムアルデヒド・n-ノナール・スチレン・テトラデカン・トルエン・キシレン・クロロピリホス・フェノフルカブ・フタル酸ジ-2-エチルヘキシル・ダイアジン)は含まない。

※アスベストに類する物質は含まない。

日本接着剤工業会認定ホルムアルデヒド放散等級自主制度による登録番号

登録番号:JAIA-011945

区分 :F☆☆☆☆

4.応急措置

- 吸引した場合: 速やかに空気の新鮮な場所に移し、咳などが治まらなければ医療処置を受ける。
- 皮膚に付着した場合: 速やかに多量の水又は微温湯で洗い流し、必要に応じて医療処置を受ける。
- 眼に入った場合: 速やかに清浄な水で最低15分間洗眼した後、医療処置を受ける。
- 飲み込んだ場合: 医師の医療処置を受ける。診断を受けるまでの間に牛乳か水を飲ませて吐き出させる。

5.火災時の措置

- 消火剤: 水、強化液、泡、粉末、二酸化炭素
- 火災時の特有の危険有害性: 製品自体は可燃物ではないが、水分が蒸発した後の乾燥物は可燃性である。
- 消火方法: 燃焼の際は、火元への燃焼源を断ち消火剤を使用して消火する。
延焼の恐れのないように水スプレーで周辺を冷却する。
- 消火を行う者の保護: 適切な保護具(耐熱性衣類など)を着用する。

6.漏出時の措置

漏出時にはできるだけ粉体の状態で回収する。

人体に対する注意事項

保護具及び緊急時措置: 回収作業には、有機溶剤又は化学品が浸透しない保護具、保護長靴、保護メガネ、防塵マスクなど適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項: 漏出した製品が河川などに排出され、環境中の生物や水質に影響を及ぼさないように注意する。濃厚な洗浄水は中和、希釈処理などにより、河川などに直接流出しないように対策をとる。

封じ込め及び浄化の

方法及び機材: 流路を毛布、土のうなどを用いてせき止め、大量流出の場合はバキュームなどで汲み上げ、少量流出の場合はおが屑、土砂などを混ぜてモルタル状として凝固回収する。
多量に流出した場合は、消防・警察・保健所に知らせる。

7.取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策

取扱者のばく露防止: 眼、皮膚などへの接触を避けるため、適切な保護具(保護手袋、保護長靴、保護メガネ、防塵マスクなど)を着用する。
取扱い後は顔、手、口などを水洗する。

局所排気・全体排気: 屋内で取扱う場合は換気に注意する。

安全取扱注意事項: 鉄、銅などの腐食の恐れがある道具・容器は使用しない。

保管

安全な保管条件

技術的対策: 凍結・直射日光を避け、室内で保管する。

混触禁止物質との分離: 使用後は直ちに密封して貯蔵する。

推奨する安全な

容器包装資材: 鉄、銅などの腐食の恐れがある容器は使用しない。

保管方法: 保管温度は5℃以下あるいは40℃以上としないようにする。

8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度：

日本産業衛生学会(2008年)

第2種粉塵： 設定されていない。

設備対策： 密閉された装置、機器又は局所排気装置で取扱うことが好ましい。
取扱い場所には洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具： 防塵マスク(吸収缶装着)

手の保護具： 不浸透性保護手袋

眼の保護具： 保護メガネ(普通メガネ型、側板付き普通メガネ型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の

保護具： 保護長靴、不浸透性保護衣

9.物理的及び化学的性質

物理的状态

形状： ペースト状

色： 灰色

臭い： わずかな有機物臭

pH： 5~7

融点： 約0℃

沸点： 約100℃

燃焼性： 特定の条件下(乾燥した場合など)で可燃性である。

溶媒に対する溶解性： 水で無限大に希釈可能

その他のデータ： 爆発性なし

10.安定性及び反応性

反応性： 自然発火性はない。水との反応性はない。

化学的安定性： 情報なし

危険有害反応可能性

避けるべき条件： 加熱・高温

混触危険物質： 情報なし

危険有害な分解生成物： 情報なし

11.有害性情報

急性毒性： 情報なし

皮膚腐食性及び

皮膚刺激性： 皮膚に付着したままにすると炎症を起こす場合がある。

眼に対する重篤な損傷性

又は眼刺激性： 眼に入ると刺激性がある。

呼吸器感作性又は

皮膚感作性： 情報なし

生殖細胞変異原性： 情報なし

発がん性： 情報なし

生殖毒性： 情報なし

吸引力呼吸器有害性： 情報なし

12.環境影響情報

生態毒性： 情報なし

残留性・分解性： 情報なし

生態蓄積性： 情報なし

土壤中の移動性： 情報なし

オゾン層への有害性： 情報なし

他の有害影響

魚毒性： 河川などに流出した場合にはエマルジョン中の樹脂の粘着による呼吸困難のため、魚類が死亡する場合がある。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄物は焼却するか、産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
洗浄水などの廃水は、凝集沈降、活性汚泥などの処理により洗浄してから排出する。
この時水質汚濁防止法に注意する。

汚染容器及び包装： 内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処分する。
都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

輸送に関する規制及び分類に関する情報

- 陸上: 消防法、労働安全衛生法、毒劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められるところに従うこと。
- 海上: 船舶安全法に定められるところに従うこと。
- 航空: 航空法に定められるところに従うこと。
- 輸送の特定の安全対策及び条件: 破袋、損傷、容器・包装からの漏出、転倒、落下などの荷崩れ防止を確実に行う。湿気、水濡れに注意する。

15. 適用法令

- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ・毒物及び劇物取締法: 非該当
- ・消防法: 非該当
- ・船舶安全法: 非該当
- ・特定化学物質等障害予防規則: 非該当

16. その他の情報

本データシートはJIS Z 7253:[GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)]に準じて作成しており、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、現時点で当社の有する情報を取扱事業者にご提供するものです。

記載内容は、現時点で入手できた資料、情報、データなどに基づいて作成たものであり、新しい知見によって改訂されることがあります。

本データシートは必ずしも製品の安全性を保証するものではなく、当社が知見を有さない危険性、有害性を持つ可能性があります。

取扱事業者は本データシートを参考として個々の取扱い、用途、用法などの実態に応じた安全対策を実施のうえ、お取扱い下さい。

